

「学ぶ土台づくり」推進計画の進捗状況を把握するための目標指標(案)

資料⑤

目標	施策	進捗状況を把握する視点	実態調査(アンケート)の設問事項	指標案	設定理由	現況値	目標値	目標値の設定根拠	県の取組(事業ベース)
						平成26年度	平成29年度		
1 親子間の愛着形成の促進	1 親子のかかわりの促進 (重点事項)	「親子のふれあい」の度合い(父親の子育ての参加)	アンケート1-1 あなたは、平日にお子さんと一緒に何かをしたり、お子さんの相手をした時間は平均して1日あたりどのくらいありますか。(食事と入浴を除く)	平日、父親が子どもと触れ合う時間について、1時間位以内と答える保護者の割合。	親子間の愛着形成が子どもの心の健全な成長・発達の出発点となることから、親子の触れ合う時間の確保は親子間の愛着形成においてとても重要であります。アンケートの結果では、「ワーク・ライフ・バランス」との関連もありますが、特に父親の子どもと触れ合う時間が少ない傾向があるため本指標を設定したものの。	49.7%	43.7%	過去の最良値である48.6%(平成24年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ土台づくり」普及啓発事業(教育企画室) ・市町村子ども読書活動支援事業(生涯学習課) ・中小企業ワークライフバランス支援事業(雇用対策課) ・「女性の力は企業の力」普及推進事業(共同参画社会推進課)
		「親子のふれあい」の度合い(母親と子どもの密度の濃い接し方)	アンケート1-2 あなたは、1-1で回答した時間において、お子さんと一緒に何をすることが多いですか。(食事と入浴を除く)	平日、子どもと触れ合う内容について「読み聞かせをする」と答える保護者の割合	親子間の愛着形成は、子どもの心の健全な成長・発達の出発点となります。絵本の読み聞かせは、親子がふれあい、絆を深めるために大切な取組です。特に、子どもにとっては、豊かな感性や人間性の育成だけでなく、他の人と同じ世界を分かち合う喜びを覚える大切な時間と言われています。アンケートの結果では、約60%の保護者が絵本の読み聞かせをしています。絵本の読み聞かせは気軽にできる親子のふれあいであり、親子のかかわりを一層深める観点から本指標を設定したものの。	61.1%	77.4%	過去の実績と経年推移から年3.1ポイントの改善を見込んだ数値を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	
		ワーク・ライフ・バランスに対する意識	アンケート2-7 お子さんの「はやね・はやおき・あさごはん」などの基本的生活習慣の確立のために、親の仕事と生活のバランス(「ワーク・ライフ・バランス」)がとれていますか。(再掲)	親の仕事と生活のバランス(「ワーク・ライフ・バランス」)が「とれている」、「どちらかといえばとれている」と答える保護者の割合	仕事と家庭生活を(子育て)との調和を図るためには、ワーク・ライフ・バランスを視野に入れた働き方について、保護者はもとより、職場等の理解が必要です。アンケートの結果では、約77%の保護者がワーク・ライフ・バランスの重要性を理解している一方で、仕事と生活のバランスを取りにくい理由として「休暇を取得しやすい職場環境にないこと」、「収入減につながることを挙げており、企業や社会全体の協力が一層求められることから、本指標を設定したものの。	77.2%	93.1%	過去の実績と経年推移から年2.5ポイントの改善を見込んだ数値を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	
2 親の育ちを支援する環境づくり	親の学びの機会の充実度	親の学びの機会の充実度	アンケート1-5 親として成長していくための学ぶ機会(母親学級や父親学級、両親学級など)が充実していると思いますか。	親として成長していくための学ぶ機会が「充実していると思う」、「どちらかといえば充実していると思う」と答える保護者の割合	すべての教育は家庭での教育の基礎の上に行われるものであり、特に、幼児期においては家庭は子どもの教育に最も重要な役割を果たす場であり、親は子どもを育て、教育をすることを通じて、社会的、人間的に成長することができます。アンケートの結果では、学ぶ機会が充実していると認識している保護者の割合が低いことから本指標を設定しました。	41.0%	51.0%	過去の実績と経年推移から年1.8ポイントの改善を見込んだ数値を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ土台づくり」普及啓発事業(教育企画室) ・協働教育推進総合事業(生涯学習課) ・子育て支援を進める県民運動推進事業(子育て支援課) ・子ども・子育て支援対策事業(子育て支援課) ・地域子育て支援センター事業(子育て支援課)
		3 社会総がかりの取組による基本的生活習慣の確立 (重点事項)	基本的生活習慣の定着度合い	アンケート2-1 お子さんはいつも何時頃に寝ていますか。	子どもが「午後9時頃までに就寝する」と答える保護者の割合	元気で積極性にあふれる子どもを育てるためには、食事や睡眠などの基本的生活習慣の確立が重要である。特に、子どもの体を健康に成長させるためには、午後9時には就寝させることが大切であります。アンケートの結果では、起床時間と朝食摂取の状況は良好ではありますが、午後9時前に就寝する子どもの割合が低いことから本指標を設定したものの。	41.9%	50.1%	
2 基本的生活習慣の確立	4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立	基本的生活習慣の定着に向けた取組の度合い	実態調査2-1(幼・保) 幼稚園または保育所の活動において、「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的生活習慣の確立のための取組をしていますか。	基本的生活習慣の確立に向けた取組を「いつもしている」と答える幼稚園・保育所の割合	「はやね・はやおき・あさごはん」など基本的生活習慣の確立のためには、家庭はもちろん、地域社会や教育現場、行政機関が一体となり、社会全体で取組を進めていく必要があります。実態調査の結果では、幼稚園と保育所での基本的生活習慣の確立に向けた日常的な取組が十分でないことから本指標を設定したものの。	46.0%	53.2%	過去の最良値である48.4%(平成24年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣定着促進事業(教育企画室) ・はやね・はやおき・あさごはん推奨運動(教育企画室) ・「学ぶ土台づくり」普及啓発事業(教育企画室) ・みやぎの食育推進戦略事業(健康推進課) ・食育・地産地消推進事業(食産業振興課) ・みやぎの食育推進戦略事業(健康推進課) ・みやぎの子ども体力運動能力充実プロジェクト事業(スポーツ健康課) ・基本的生活習慣定着促進事業(教育企画室)
		栄養バランスの良い食事の摂取状況	アンケート2-4 お子さんの朝ごはんにそろえるものは「主食」「主菜」「副菜」のどれが多いですか。	朝食に、「主食、主菜、副菜、その他」、「主食、主菜、副菜」をそろえると答える保護者の割合	幼児期は、身体の諸機能が著しく発達する時期であり、身体を動かす習慣を身につけることだけでなく、朝食の欠食や偏った栄養摂取による肥満傾向の増大など、食に起因する問題もその後の成長や健康の増進にも大きな影響を与えます。アンケートの結果では、朝食の摂取率は高いが、栄養バランスのよい食事内容であるという状況にはないことから本指標を設定したものの。	36.0%	47.4%	過去の最良値である43.1%(平成23年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	
		体力の向上と運動習慣づくりの状況	アンケート2-5 お子さんは家で遊ぶ時、室内、室外のどちらが多いですか。	子どもが家で遊ぶとき、「ほとんど室外」、「どちらかといえば室外」と答える保護者の割合	幼児期は、身体の諸機能が著しく発達する時期であり、この時期に身体を動かす習慣を身につけることは、体力や運動能力の向上に寄与するだけでなく、その後の成長や健康の増進にも大きな影響を与えます。アンケートの結果では、外で遊ぶ機会の割合が低い状況にあることから本指標を設定したものの。	27.7%	30.4%	過去の最良値である27.7%(平成26年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	
5	ワーク・ライフ・バランスの促進	ワーク・ライフ・バランスに対する意識	アンケート2-7 お子さんの「はやね・はやおき・あさごはん」などの基本的生活習慣の確立のために、親の仕事と生活のバランス(「ワーク・ライフ・バランス」)がとれていますか。	親の仕事と生活のバランス(「ワーク・ライフ・バランス」)が「とれている」、「どちらかといえばとれている」と答える保護者の割合	幼児期においては、養育者の行動を模倣することによって様々な行動を学習し、生活習慣もそうした模倣を通じて習得されるものの1つであり、規則正しい生活習慣が確立できるかどうかは、親の生活習慣に大きく影響されます。アンケートの結果では、約77%の保護者がワーク・ライフ・バランスの重要性を理解している一方で、仕事と生活のバランスを取りにくい理由として「休暇を取得しやすい職場環境にないこと」、「収入減につながることを挙げており、企業や社会全体の協力が一層求められることから、本指標を設定したものの。	77.2%	93.1%	過去の実績と経年推移から年2.5ポイントの改善を見込んだ数値を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・協働教育推進総合事業(生涯学習課) ・中小企業ワークライフバランス支援事業(雇用対策課) ・「仕事」と「家庭」両立支援事業(雇用対策課) ・「女性の力は企業の力」普及推進事業(共同参画社会推進課)

「学ぶ土台づくり」推進計画の進捗状況を把握するための目標指標(案)

目標	施策	進捗状況を把握する視点	実態調査(アンケート)の設問事項	指標案	設定理由	現況値	目標値	目標値の設定根拠	県の取組(事業ベース)
						平成26年度	平成29年度		
3 豊かな体験活動による学びの促進	6 人とかがわる体験の充実 (重点事項)	自然体験の活動状況	アンケート3-1 家庭でお子さんは自然体験活動(水遊び、虫捕り、キャンプ、ハイキングなど)をどのくらいしていますか。	子どもが自然体験活動を「何度も(いつも)している」と答える保護者の割合	幼児期における豊かな体験が自らの成長とその後の人生にも大きな影響を与えることから、さまざまな人とのかかわりや体験による自我の芽生え、さらには社会性の芽生えを促すため、生活体験や社会体験、自然体験などの多様な体験をさせることが必要であります。アンケートの結果では、友だちとの遊びを除き、体験活動の頻度は高くはないことから本指標を設定したものの。	14.7%	29.1%	過去の最良値である26.5%(平成24年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・協働教育推進総合事業(生涯学習課) ・グリーン・ツーリズム促進支援事業(農村振興課) ・豊かな体験活動推進事業(義務教育課) ・人と自然の交流事業(生涯学習課) ・児童健全育成事業(子育て支援課)
		生活体験の活動状況	アンケート3-1 家庭でお子さんは家事・手伝い(食事の配膳・片付けや掃除、洗濯物をたたむなど)をどのくらいしていますか。	子どもが家事・手伝いを「いつもしている」と答える保護者の割合	幼児期における豊かな体験が自らの成長とその後の人生にも大きな影響を与えることから、さまざまな人とのかかわりや体験による自我の芽生え、さらには社会性の芽生えを促すため、生活体験や社会体験、自然体験などの多様な体験をさせることが必要であります。アンケートの結果では、友だちとの遊びを除き、体験活動の頻度は高くはないことから本指標を設定したものの。	29.5%	37.8%	過去の最良値である34.4%(平成23年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	
体験活動を行う機会の充実度		アンケート3-3 あなたが住まいの地域では、体験活動について参加できるイベントや催しなどがありますか。	居住する地域において、体験活動について参加できるイベントや催しがある、「あるものが多い」と答える保護者の割合	アンケートの結果では、居住する地域において体験活動をできるイベントや催しなどが「ある」または「あるものが多い」と答える保護者の割合が少ないことから本指標を設定したものの。	22.1%	29.9%	過去の最良値である27.2%(平成23年度)を基礎値とし、さらに10%改善した数値を目標値とするもの		
7 遊びの環境づくり	遊びの環境の充実度	アンケート3-4 遊びの場として、公園や公民館、児童館などのコミュニティー施設を利用していますか。	遊びの場としてコミュニティー施設を「いつも利用している」、「時々利用している」と答える保護者の割合	子どもの成長、特に幼児期の子どもの成長には、適度な運動、十分な睡眠、栄養バランスのとれた食事が不可欠で、基本的な生活習慣の確立や食育の推進を図るとともに、子どもたちが安心して思いきり遊べる環境づくりが必要です。アンケートの結果では、コミュニティー施設の利用頻度が高いとはいえない傾向にあることから本指標を設定したものの。	32.4%	67.4%	過去の最良値である61.3%(平成23年度)を基礎値とし、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室推進事業(生涯学習課) ・協働教育推進総合事業(生涯学習課) ・公民館等を核とした地域活動支援事業(生涯学習課) 	
4 幼児教育の充実のための環境づくり	8 幼保小の連携と小学校への円滑な接続 (重点事項)	幼・保・小の連携の充実度	実態調査1-1(幼・保) 小学校とどのような内容の連携を図っていますか。	小学校との連携を「情報交換」と答える幼稚園と保育所の割合	子どもの健やかな成長のためには、その基盤となる家庭での取組に加え、学びと発達との連続性を確保するという視点に立った幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続を図っていくことが大切であります。実態調査の結果では、小学校との連携について「就学時引継ぎ」はほとんどの幼稚園・保育所で行っている一方で、子どもに関する具体的な「情報交換」と答える幼稚園と保育所の割合は、平成23年度以降上昇傾向にあるものの、決して高い水準にあるとはいえないことから本指標を設定したものの。	70.4%	78.2%	過去の最良値である71.1%(平成25年度)を基礎値とし、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ土台づくり」普及啓発事業(教育企画室) ・幼・保・小連携推進事業(義務教育課) ・保育士研修事業費(子育て支援課) ・幼稚園等新規採用教員研修事業(教職員課) ・10年経験者研修事業(教職員課)
		研修の機会の充実度	実態調査3-1 現在の研修の状況についてお答えください。	現在の研修状況について、「満足している」、「だいたい満足している」と答える幼稚園教諭、保育士の割合	幼児教育の充実を図る上で、子どもにかかわる幼稚園教諭や保育士の専門性の確保は重要であり、多様化する親のニーズに的確に対応するためにも、研修会の機会・内容の充実により、職員の資質の一層の向上を図ることが必要です。実態調査の結果では、「満足している」、「だいたい満足している」と答える幼稚園教諭、保育士の割合が8割弱と高い水準にあるものの、「仕事が多忙で研修会へ参加する時間がない」「平日の参加は難しい」など、研修を受講したくとも障壁があり、参加できない職員も依然として少なくないことから、今後一層の職員の資質向上を目指し本指標を設定したものの。	79.3%	93.8%	過去の実績と経年推移から年2.0ポイントの改善を見込んだ数値を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	
	9 特別支援教育の推進と理解の促進 (重点事項)	発達障害等に対する相談窓口等の認知度	アンケート4-3 お子さんの行動(落ち着きがない、パニックを起こしやすい、友人と行動が取れないなど)が気になるとき、どこに相談したらよいか知っていますか。	発達障害等について相談したいとき、どこに相談したらよいか「知っている」、「だいたい知っている」と答える保護者の割合	発達障害等については、その見極めの難しさなどから、対応に苦慮しがちですが、早期発見から適切な支援へのつながりを円滑にする必要があります。アンケートの結果では、発達障害等に関する相談窓口等について知っている保護者は約半数にとどまっていることから、相談窓口等の周知を促進するために本指標を設定したものの。	53.8%	64.1%	過去の実績と経年推移から年1.5ポイントの改善を見込んだ数値を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育地域支援推進事業(特別支援教育室) ・特別支援教育総合推進事業(特別支援教育室) ・障害児就学指導審議会(特別支援教育室) ・乳幼児精神発達精密検診及び事後指導事業(子育て支援課) ・総合教育センター教育相談事業費(特別支援教育室) ・心身障害児発達・療育支援事業(子育て支援課) ・障害児(者)相談支援事業(障害福祉課) ・発達障害者支援センター運営事業(障害福祉課) ・「学ぶ土台づくり」普及啓発事業(教育企画室)
		10 地域における支援体制の充実	子育ての支援体制の充実度	アンケート4-2 子育ての悩みについて誰に相談していますか。	子育ての悩みについて相談する人が誰もいないと答える保護者の割合	アンケートの結果では、子育ての悩みについて相談する相手として、配偶者や親、友人、幼稚園・保育所の先生など身近な方に相談するとの回答が多い一方で、少数ではありますが、「相談相手誰もいない」と回答する保護者もいることから、本指標を設定したものの。	1.9%	1.6%	過去の最良値である1.8%(平成23年度)を基礎値とし、当該基礎値から、さらに10%改善した数値を目標値とするもの